

## 第2号報告 令和4年度事業計画および収支予算の件

### I. 基本的考え方：

2022年度は「抜本的改革・選択と集中」（2018年度～2022年度）の最終年となる。

これまで、体制・人件費対策として部門縮小、人員削減等の痛みを伴う改革を実践するとともに、増益対策として①甘藷面積の拡大（15～20ha）、②教育の高度化（先進農家との連携、施設園芸の整備）、③農福連携の推進（放デイ）等を実施している。

コロナ禍の影響、部門集約（作物）や放デイ等の新規事業の成果未定の段階であり、依然として厳しい経営（大幅赤字）が継続している。

2022年度は、以前の理事会で協議した「6つのチャレンジ目標」を具体化・実践し確実な赤字解消に努めると共に、「小さくても魅力ある学園づくり」を進めていく。

### II. 2022年度収支予算・経営改善計画について：

1. 2022年度収支予算書：別紙  
別紙6 経営改善計画

単位：百万円

#### 2022年度収支計画について

##### <収入>

- ・教育収入は学生数の回復、求職者支援訓練の開始、農業体験等の回復により試算。
- ・農場収入は養牛の預託契約への切り替え、蔬菜関係の再設計で売上減少だが、かんしょの規模拡大（10ha⇒15ha）の増加分と合算すると横ばいと試算。

##### <支出>

- ・障害福祉サービスは事業が軌道に乗り黒字化の見込み。

### III. 実施具体策

#### 1. 主要行事の実施

第1回理事会 2022年5月下旬

定期総会 2022年6月中旬 ※役員改選

第2回理事会 2022年10月下旬

第3回理事会 2023年3月上旬

## 2. 2022年度事業について

- <教育関係> 一別紙7
- <農場関係> 一別紙8
- <施設設備> 一別紙9
- <農福連携> 一別紙10

## 2. 重点実施策（6つのチャレンジ目標を中心に）

### （1）体制・販売拡大策の検討・実施

人員減少とともに品目を絞り、収益を確保していく。ネットショップの運営と直売所の営業日数の増加、品揃えの充実を実施していく。

### （2）甘藷事業の収益拡大と規模拡大（10ha⇒15ha）

収益確保の柱として「面積の拡大」「保管庫をフル活用した販売期間の延長」、「苗販売事業」、「教育での活用」等の検討・実施を更に進める。  
別紙10 かんしょ事業について

### （3）有機農業の推進

既存の有機部門を有識者や関係団体の協力を得ながら発展させていく。「みどりの食糧システム戦略」に沿い、有機農業者育成、指導者育成の場を作っていく。

### （4）土づくり

土壌医等、最新の知見に基づいた土づくりを進める。廃菌床の堆肥、緑肥（飼料作）、持続可能なかんしょ生産の為の輪作体系を検討していく。

### （5）農福連携

放デイ「サーラ」の運営を軌道に乗せ、情報発信していく。  
障がい福祉サービス事業所『たけのこアドバンス』（就労継続支援B型）が敷地内で開所（賃貸契約）。農場との結びつきを強めていく。

### （6）教育の充実と学生の確保

既存の農場を規模拡大、収量・品質向上に努めるとともに、先進農家との連携や施設園芸の充実を推進し、内容を充実させていく。

市民農園「農あるくらし農園」を開設し、市民や就農希望者、学生が共生しながら農業に取り組む環境を整備する。

(7) 情報発信

広域対策（SNS活用・小冊子の作成）、地域対策（チラシ・イベント・体験研修）、学校訪問対策（リモート活用・フォロー）を強化する。

また、販売拡大のため「ネット販売機能」を更に充実させる。

(8) 計画的な資金運用

運営資金を予測しながら、計画的な資金運用を行う。

また、「将来のための資金確保」も進める。

以上